

ずっとこれからも 守っていきたい伝統行事

まめどろ

～山の神集落～



それぞれの土地に古くから伝わってきた伝統行事があります。蒲生地区の山の神集落には、「まめどろ」という行事があります。その行事が、1月11日（月）行われると聞き、山の神公民館を訪れてみました。

「まめどろ」と言われるこの行事、昔、「念仏の口はじめ」と言われた16日頃に、正月に入り初めて仏壇を開けて念仏を唱え、お坊さんは檀家回りをしていました。「まめどろ」は「なんまいだあ」がなまったとも言われ、当番の家に集落の子ども達が集まり、「まめどろ。まめどろ。」と言いながら巨大数珠を持って何百回と数珠繰をした後、各家庭を回りながら、一年の厄払いをしていました。現在は、お坊さんの檀家回りではなく、公民館で数珠繰をしてから、各家庭を回って厄払いをしています。

この行事は、小学生と中学生が中心となっていて行っていますが、昭和30年代には100名くらいいた子ども達も、今年は、上は中学2年生から下は小学校5年生の4人のみ。子どもだけでは成り立たなくなっただけで、今年は大人も加わることにしました。少子化は、こんなところにも影響を及ぼしています。

「やめるのは簡単。無くしたくないと思ってやっている。伝統を守っていききたいと数珠も新しくしました。」と福田区長。



貴重な集落の子ども達
左から 坂口瑞季さん、谷口あかりさん、
山川航平さん、坂口大輝さん



印木に墨を塗って各家庭分のお札を作ります

この「まめどろ」が、いつ始まったのかは、詳しい資料がないため、分からないのですが、数珠繰の行事は、後醍醐天皇の時代に百萬遍の念仏を唱えたところ、疫病が収まったのが始まりとも言われています。もし、この山の神集落でもこの頃から始まったのであれば、約700年の歴史を持つことになります。薬が今のようになかった時代、

神や仏だけが頼りだったのでしょうか。1年に1回「みんなが健康でいられますように。」と改めて相手を思いやりながら厄払いをし、健康でいられる喜びを感じていたことも想像できます。便利な世の中になっても、相手を思う気持ちが込められた「まめどろ」。今の時代に合ったやり方に変化したとしても、なんとか続いていてほしいものです。



みんなの健康を祈る行事 地域の方の心と心結びます